

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第41週)

(令和8年10月5日～令和8年10月11日)

令和8年10月15日

定点報告(上段:定点当たり／下段:報告数)、全数報告(報告数)		2026年					2025年 合計	2024年 合計
区 分	疾 病 名	38週	39週	40週	41週	合計		
定点報告	インフルエンザ	4.67	6.00	9.00	5.67	—	—	—
		14	18	27	17	681	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	6.33	2.00	3.67	1.67	—	—	—
		19	6	11	5	250	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	—	—	0.50	—	—	—
		0	0	0	1	32	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	9	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	—	—	0.50	—	—	—
		1	0	0	1	120	243	657
	感染性胃腸炎	1.00	1.00	1.00	1.00	—	—	—
		2	2	2	2	140	430	610
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	8	10	6
	手足口病	1.00	—	0.50	0.50	—	—	—
		2	0	1	1	135	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	20	59	182
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	16	4	19
	流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	1	10	13
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	1.00	—	—	—	—	—
		0	1	0	0	2	2	9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	16	1
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	4.00	—	2.00	1.00	—	—	—
		4	0	2	1	29	42	16
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	1.00	—	2.00	—	—	—
		0	1	0	2	11	39	19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	2.00	—	1.00	—	—	—	—
		2	0	1	0	25	56	120
	急性呼吸器感染症(ARI)	63.67	45.00	42.33	57.33	—	—	—
		191	135	127	172	6,877	8849	—
全数報告	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	1	2	0	1
	レジオネラ症	0	0	0	1	5	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザの 流行 が見られます。
全数把握疾患	腸管出血性大腸菌感染症(60代1名)とレジオネラ症(50代1名)の届出がありました。

インフルエンザ	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。 ※注意報 本県の第41週の定点報告数は10.90となり、注意報の基準である定点当たり報告数10.0を超えました。昨年より3週早い状況です。A型が流行しており、県内の多くの地域で報告数が多い状況が続いています。感染の拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど、体調管理に留意するとともに、手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。また、ワクチンの早期接種を検討してください。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して減少しました。 基本的な感染対策を徹底し、感染に注意しましょう。
腸管出血性大腸菌感染症	本県で2例報告がありました。 腸管出血性大腸菌感染症は、ペロ毒素を産生する大腸菌に感染することで起こり、2～9日ほどの潜伏期間の後、激しい腹痛を伴う下痢や血便等の症状が生じます。主に、菌に汚染された食品等を摂取する経口感染により感染し、人から人への感染は、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分にできなかった場合などに起こります。食品を十分加熱したり、調理後の食品は早く食べきる等、食品を適切に取り扱い、食事前やトイレ使用後等には石けんと流水による手洗いを徹底しましょう。
デング熱	本県で1例報告がありました。 デング熱はデングウイルスを持つ蚊に刺されることによって生じる感染症です。2～15日(多くは3～7日)程度の潜伏期間の後、高熱、頭痛、関節痛、発しん等の症状が見られます。感染リスクのある地域へ渡航する際は、肌の露出を避け、虫よけ剤を利用する等、蚊に刺されないよう心掛けてください。人から人への感染はありませんが、蚊を媒介して感染が広がるため注意が必要です。
レジオネラ症	本県で1例報告がありました。 レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ、重症化するリスクがあります。気温、湿度ともに高い時期に報告が増える傾向にあり、県内では5月下旬より断続的に報告されています。菌が常在する乾燥土壌の土埃や、菌が存在する入浴施設、加湿器等の水場のエアロゾルの吸引による感染が多いので、通常の感染対策とともに、定期的な清掃、防塵対策、施設等での菌検査を行い感染リスクを抑えましょう。
破傷風	本県で1例報告がありました。 破傷風は破傷風菌が産生する毒素により生じる感染症で、傷口から菌が体内に入ること感染します。3日～3週間の潜伏期間の後、口を開けにくい、首筋が張る等の局所症状が現れ、その後、全身が弓なりに反る姿勢や呼吸困難が生じます。人から人へ感染することはありません。予防接種が有効です。死亡率が高く予後の悪い感染症なので早期診断や治療が重要です。

インフルエンザの報告数が増加しています。感染の拡大を防ぐため基本的な感染対策の徹底をお願いします。

・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。

・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。

・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。

・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。